



かがやき

かんがえる
かんばる
がさえる
がさえる
がさえる

時津町立鳴鼓小学校
学校だより 第10号

令和4年10月26日
文責：校長 今井大輔

充実の秋パート2

2学期は、3つの学期の中で一番長く、更に様々な教育活動を行うので、子供たちがぐんと成長します。教科の勉強だけではなく、友達や先生、地域の方との関わりの中で学ぶことも多く、学校の存在価値を実感できることもこの2学期にはたくさん含まれています。この2週間でも講師や地域の方から学ぶ様々な体験活動や学習がありました。インターネットで調べたり疑似体験したりはできますが、やはり実体験には勝りません。子供たちは本当にいい体験をさせてもらっています。

銭太鼓浮立

鳴鼓小は、長い間左底地区に伝わる郷土芸能「銭太鼓浮立」を、左底婦人会の方に教えていただいています。毎年、4年生が総合的な学習の時間で「地域に伝わる伝統文化」の学習の一環として取り組んでおり、左底地区の方（畑真理子さん他4名）が細部にわたるところまでいねいに伝授してくださいます。子供たちは、銭太鼓の意味や舞い方を学びながら意欲的に取り組んでいます。なつみっ子発表会で披露されるのが今から楽しみです。



ＶＤＲＩＭ

Vファアレン長崎主催の「Vドリム」企画が10月19日に鳴鼓小にやってきました。登校時にヴィヴィくんが校門であいさつ運動をしてお出迎えをするところから始まりました。5・6年生は、インストラクター（元サッカー選手の前田悠佑さん）とのミニシアティゲームや、「将来の夢」についての講演を受けました。その間に、1・4年生の教室にはヴィヴィくんがサプライズで登場。一緒に算数科を勉強したり、メッセージを送ってくれたりして、とても勉強になり、楽しい時間を過ごすことができました。子供たちが喜んだことはもちろんのことですが、それ以上に先生方が大喜びで、短い時間でしたが、学校中が笑顔満開で、笑顔にあふれました。



一緒に運動
あそびました



この企画を実現するにあたって、立役者児童が2名います。6年江頭叶太さんと5年和泉ひよりさんです。4月頃に二人が突然校長室へやってきて「VファアレンのVドリムを知っていますか？ぜひ、鳴鼓小へ呼んでください。」と申し出てきました。その後、その熱い思いを綴った作文を提出し、Vファアレンと連絡をとり、Vドリムを呼ぶところまでに至ったのです。思いだけでなく、行動に移したその力が今回のイベントの実現につながりました。

お茶の淹れ方教室

10月20日に長崎県茶業振興協議会のみなさんから、5年生が日本茶のおいしい淹れ方の手ほどきを受けました。家庭で急須を使ってお茶を淹れる経験をしたことがない子も意外と多く、さ湯を適温に下げる方法や最後の一滴まで搾り取る方法など、興味津々に取り組んでいました。自分で淹れたお茶を「おいしい」「甘い」「苦い」と感想を述べながら、楽しそうに飲んでいました。きっと、家庭に帰ってから、いつもより美味しいお茶を淹れて飲んでいることでしょう。



1年生の問題に挑戦
ヴィヴィくん、全問正解！

つばやき

昼休みに校長室へ遊びに来る子供によく聞かれる質問がある。「校長先生って、学校で一番偉い人でしょ？」と。そこで私は、「いや、偉くはないよ。役職の名前だよ。」と答え、「逆に聞けど、偉い人ってどんな人？」と質問すると、「社長さん」や「大臣」「お金持ち」などの答えが返ってくる。俗にいう「偉人」とは、「すぐれた仕事をなしたと、多くの人から尊敬される人。」である。しかし、「偉い人」というと少しニュアンスが違うように感じる。地位が高い人が偉いのか。何かを成功した人が偉いのか。学校で子供たちに「偉いね。」と言葉かけをする時は、「自分で考えて行動できた時」や「友達のことを思った言動をとれた時」「こつこつと掃除や片付け、作業をした時」などである。係のリーダーや委員会の委員長、活動班の班長など役職にある人を「偉い人」と、子供たちが思うことはない。学校内では、役職は地位ではないからだ。毎朝、都合をつけて交通安全のために立哨指導をしてくださっている見守り隊（地域）の方、早朝に左底交差点から上左底までの道沿いを10年以上もごみ拾いをしていられる方（現鳴鼓小の保護者）など、無償で地域や子供たちのために行動をしている人を見ると、心から「偉いな。」と思う。子供たちにも地位や収入、役職だけでなく、「何を成し遂げたのか」「世や人のためにどうしているのか」という視点をもつて考えさせるようにしていきたいと思っています。